

組織行動研究

No. 1

編集後記にかえて

●今度から産研の各研究班がそれぞれ機関誌を出していくことにしたんだ。どうだい、これをきっかけにオレたちの仕事をまとめていっては……と、佐野教授からお誘い(?)をいただいたのは、確か1974年の夏のとある日、イリノイ大学労働産業関係研究所のラウンジであった、と思う。当時私は、同研究所の博士課程に在学中で組織行動研究部門のアシスタントとして、自分の勉強と他人(?)の研究の手伝いに追われていた。それで——というわけでもなかったろうが——私の返事は「フンフン」といった大変失礼な気乗りのしないものであったように記憶している。それから三年、結局“お誘い”を受けたかたちになり、こうしてここに「オレたちの仕事」の第1号を上梓する次第である。

●結果的に本第1号は、私たち「社会心理学研究班」の仕事のうち、二つの「追跡研究」プロジェクトを紹介するかたちとなった。1972年(JRM)と1974年(KAS)に始まったそれぞれのプロジェクトは、現在も続行中である。一応のまとめりをみるにはあと二~三年は要するであろう。資料を集めては分析し、分析しては角度をかえてまた資料を収集することのく

りかえしがまだまだ続くわけだ。お前まだドカチン作業をやるノ、よくあきないネエ……などと私の友だちは言ったりする。返答に窮してにが笑いしている私の耳もとに、「実証的研究てのは、その結果が標準的な教科書の一行にでもとりあげられれば、それでよしとするようなモンなんだよねえ……」という声が聞えてくる。佐野教授の好んで口にされる言葉(嘆息?)である。

●お読みになればおわかりのとおり、本号は、そのほとんどが既に発表したものの全面再録(もちろん少しずつの補筆や加筆はあるが)である。このため読まれて奇異に感ぜられる箇所もあることと思う。ことに、“商学部入試漏洩事件”などを考えれば、「大学生の自我同一性確立過程」モノグラフの出だしなどは、今となってはなんとも皮肉的に響いてくる。それでも特別に書きかえることをあえてしなかった。この辺の事情も汲みとってお読みいただければ編集者としては幸せである。

●わが国の「社会心理学」や「組織行動学」はまだまだ“荒野”に近い。この荒野に挑むフロンティアの輩出されんことを願って、発刊第1号をおくる。(南隆男)

慶應義塾大学産業研究所社会心理学研究班モノグラフ

組織行動研究 (第1号)

編集 佐野勝男・南 隆男

KEIO STUDIES ON  
ORGANIZATIONAL BEHAVIOR AND  
HUMAN PERFORMANCE No. 1  
SEPTEMBER 1977

〒108 東京都港区三田2-15-45  
発行 慶應義塾大学産業研究所  
電話 (453) - 5640 (直通)  
〈昭和52年9月15日〉

〒104 東京都中央区八丁堀3-21-4  
印刷 株式会社 国際印刷  
電話 (551) - 3930 (代)  
〈昭和52年9月10日〉